



国際会長

東日本区理事

湘南・沖縄部長

クラブ会長

《2022-2023年度主題》

ウルリック・ラウリドセン (DNK)

“Let Your Light Shine (「輝かそう、あなたの光を」)

アジア太平洋地域会長 チェン・チ・ミン (TWN)

“Elegantly Change with New Era”

佐藤 重良 (甲府21)

「未来に向けて今すぐ行動しよう」

小松 仲史 (厚木)

「楽しく・元氣よく・前向きに」

今城 高之

「楽しく、なにはさておき楽しく！」

2022-2023 クラブ役員

会長	今城 高之
直前会長	辻 剛
書記	岡田 美和
会計	横田 孝久

今月の聖句

「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の身を滅ぼしたり、失ったりしては、何の得があろうか。」

ルカ福音書9・24-25

3月本例会

日時 3月24日 (金) 17:30～

場所 かけはし都筑

司会 鈴木 茂 受付 辻 剛

= プログラム =

1. 開会点鐘 会長
2. ワイズソング・ワイズの信条唱和
3. 今月の聖句とお祈り チャプレン
4. 会長挨拶 会長
5. ゲスト・ヴィジター紹介
6. 卓話：小林 保さん
テーマ：「ブリューゲルと
フェルメール」
～ネーデルランド絵画の
寓意について～
7. 協議・報告事項
8. YMCA報告 鴨下館長
9. Happy Birthday
相賀 昇 (3/22)
辻 孝子 (3/31)
10. アピール・スマイル
11. 閉会点鐘 会長

《巻頭メッセージ》 球根の中には

今城 宏子

レントのただ中であって、教会員の方お二人、教会員のご家族お一人が天に召されました。神様のみもとで先に召された方々と共に平安におられることを思い、感謝いたします。しかしながら、残されたご家族にとっては悲しさ、寂しさは計り知れないものでしょう。ただ上からのお慰めをお祈りするばかりです。



そのような思いを讃美歌21の575番「球根の中には」を作詞作曲したナタリー・スリースも持っていたようです。「さんびかものがたりV」(川端純四郎著)によりますと、この賛美歌は、ある友人の死をきっかけに、死と生、冬と春、死と復活について思い巡らしている時に、別な友人からエリオットの詩、『四つの四重奏』の中に『わが終わりにぞわが始めあり』という一節を聞いて、その言葉に刺激されて生まれたということです。余命わずかであったパートナーのロナルドは自分の葬儀でこの曲を歌うよう言い残したそうです。以下にその歌詞を記します。

球根の中には 花が秘められ、さなぎの中から いのちはばたく。
寒い冬の中 春はめざめる。その日、その時を ただ神が知る。
沈黙はやがて 歌に変えられ、深い闇の中 夜明け近づく。
過ぎ去った時が 未来を拓く。その日、その時を ただ神が知る。
いのちの終わりは 命の始め。おそれは信仰に、死は復活に、
ついに変えられる 永遠の朝。その日、その時をただ神が知る。

美しい歌詞と、やさしい誰でもすぐに歌えるような旋律で、讃美歌21が刊行されて以来、愛唱讃美歌のトップ10に入っています。悲しみの中にあっても、この讃美歌を歌うとき、希望と神様の起こされる奇跡への信頼が自然に沸き起こります。

私達も長いコロナとの戦いから少しずつ解放され、今年はお花見も解禁になるとか。このプリテンがでる頃には開花宣言が聞かれそうです。ミモザ、コブシ、そして桜など美しい花々を平和な日本で見ることの幸せを感謝したいと思います。

しかしながら今、ロシアの侵略で破壊されつくしたウクライナの町々や、大地震で崩れ落ちたトルコ、シリアの被災地の有様などを目にすると、いつになったら悲惨な状況が収束に向かうのか、暗たんたる気持ちになります。人の愚かさによって荒れ果てた土地に神様が目を向けてくださるよう、一つでも球根が残りますように、深い闇の中から夜明けが近づきますように、ただただ祈るばかりです。

(完)

《例会報告》

2023年2月度本例会

鈴木恭子

日時：2月24日（金） 17:00～19:00
場所：かけはし都筑
出席者：相賀、今城 T・H、大野、岡田、鴨下
鈴木 K、辻 Ta・Tsu、横田、坂口(ZOOM)
(合計11名)

司会：横田孝久

【議事概要】

1. 開会点鐘 今城会長
2. ワイズソング・ワイズの信条 一同
3. 今月の聖句と祈禱 相賀チャプレン
4. 会長挨拶 今城会長
5. ゲスト・ビジター紹介 司会者
当日の卓話者太田聡さんは横浜北YMCAの副館長、横浜YMCAオルタナティブ事業部長として埼玉YMCAから2年間の約束で来ておられます。
6. 卓話：太田聡さん
テーマ：『YMCAで出会った子どもたちが教えてくれたこと』
 - ① 生い立ち
相模原市出身、日本社会事業大学卒（地域社会福祉専攻）
 - 在学中に1年間英国ウエールズの障がい者施設にボランティア留学をして日本との違いに衝撃を受けた。
 - 卒業後の進路に悩んでいるときYMCAの活動を知り入職する。
 - YMCAでの経験
 - * アメリカ、オレゴンへのキャンプとホームステイ。
 - * ステップⅡ（2009年）の学び。関田寛雄牧師からキリスト教を学び2年後に受洗。
 - * 災害支援 球磨村（2020・9）。10日間の人とのつながりの中で支援する側とされる側ではない事を体験する。
 - ② 発達障がいとは
 - ・ 出会った子どもたち
 - ・ 考え方：人間は誰でもデコボコがある。大人の関わり方で変わる。困った子として考えずに、困っているのは子供たちである事を理解する。
 - ・ 見方：ネガティブからポジティブにかえる。
 - ・ 手だて：「合理的配慮」する。個性に合わせて変える。環境を変える。
 - ③ 耳ざわりの悪くない言葉を考える
「障がいは個性」…理解と支援を必要とする個性で

ある。
「障害」：YMCAでは「障がい」を用いる。
「共に生きる社会」「絆」：お互いに助け合えるあるべき姿。国は富の再分配。地方は傷の再分配。
④ 私たちが目指す社会・社会課題に対する取り組み
子供に寄り添う。私たちがまず変わる。(家族、地域)
「平和を実現する人は幸いである」上林順一郎牧師。
一人一人がやることは小さいがやり続ける。

7. 協議・報告事項
会長から3月卓話「がんゲノム検査」(川越さん)、4月卓話者未定。5月北YMCA・つるみクラブ・つづきクラブの交流会。
8. YMCA報告
 - ① 国際地域協力募金（新横浜）2月19日・横田、岡田さんが参加感謝。
 - ② 5月26日交流会の会場は敦煌1階。
 - ③ 光州YMCAの100周年祝賀訪問に鈴木茂さん参加。
9. Happy Birthday
山添 訓さん（2月17日）
10. アピール
横田さん：都筑防災セミナーに参加 2月23日。
大野さん：マフラーの残りについてYMCAの石川さんにお任せする。
11. 閉会点鐘
その後ピンクシャツデーの記念写真撮影。（以上）

右：卓話者の太田さん(右)と司会の横田さん
下：ピンクシャツデーを覚えてピンクの装いで記念撮影



《特別寄稿》

光州YMCA創立100周年祝賀訪問参加報告

鈴木 茂

さる2月23日（木）～25日（土）、私は横浜YMCAの韓国・光州YMCA創立100周年祝賀訪問に参加する機会を与えられました。訪問団は工藤誠一横浜YMCA理事長、佐竹博総主事を中心とする総勢11名でした。実は、光州YMCAは3年前の2020年10月に、本来の100周年記念式典を実施していました。しかし、当時はコロナ禍のために韓国を訪問することができず、私どもはオンラインで記念式典に参加するのみでありました。横浜YMCAとしては、光州YMCAとの長い交流関係に鑑み、ぜひ直接訪問の上、親しくお祝いを申し述べたいと機会を探っていましたが、今般コロナもやや収まる兆しが見えてきたことから、やっと実現したものでありました。

横浜YMCAは2000年9月に光州YMCAと姉妹契約を締結し、以来YMCA職員による相互の長期研修派遣や理事・常議員と職員の短期研修派遣が、毎年続けられてきました。今城高之さんが2019年に短期研修派遣団の団長として、光州を訪問されましたし、私も2011年に短期研修団として訪韓しました。

横浜YMCAと光州YMCAとの交流関係は、実質的には今から45年前の1978年にスタートした「少年サッカー交流」から始まっていました。さらに、1989年からは横浜・光州・上海の「三都市YMCA会議」が2年ごとに開催されてきました。このように横浜YMCAは光州YMCAとの深い交流の歴史を持っており、世界の複数のYMCAとの友好関係を

持っている横浜YMCAですが、正式な姉妹提携を結んでいるのは光州YMCAだけであります。

今回の祝賀訪問では、2月24日（金）8:30より光州YMCA本館で「100周年記念品贈呈式」と「両YMCA近況及び活動報告会」が行われ、工藤理事長から祝賀の挨拶が述べられました。また同日夕刻には、「記念晩餐会」が持たれ、私がお祝いのご挨拶をさせていただきました。

今回は2泊3日という短期の訪問旅行でありましたが、この間光州YMCAの方々が、新設された「国立アジア文化センター」の見学、光州YMCA創設者であるオバン牧師の「オバン先生記念館」の訪問、光州事件で犠牲となった市民が葬られている「国立5.18民主墓地」の墓参などにご案内くださり、非常に歓待して下さったことが強く印象に残りました。

最後に余談になりますが、最近ではコロナの影響もあって、韓国への渡航においても①K-ETA（電子渡航確認証）の取得、②Q-CODE（検疫事前登録システム）の登録、③ワクチン3回接種証明書の作成、④日本帰国の際の“VISIT JAPAN Web”（検疫手続事前登録）などの手続きをすべてスマホで行なわなければならない、極めて面倒な作業が要求されました。私一人ではとても対応できず、YMCAのスタッフの方に大変助けていただきましたことを、改めて感謝したいと思っています。 以上



2月のデータ



例会出席	12名	在籍会員数	16名	各種記録	月実績	年度累計
メンバー	11名	月間出席者数	11名	スマイル	0円	30,000円
ビジター	0名	メキップ*	1名	—	—	—
ゲスト	1名	月間出席率	75.0%	—	—	—

今回は2つの事をご報告させていただきます。
 1つ目は、今年度の横浜北YMCAでの国際協力募金目標50万円をクリアできるところまで来ていることです。

3年ぶりに開催できました『北Yまつり』が多くの募金につながりました。また、You&Iコンサートでの募金や2月の募金月間での会員への募金のお願い・ミニバザー・街頭募金など様々な取り組みが計画通りに行えたことも大きな要因でもあります。



あ新
げ横
横浜
駅事
前
が
で
の
街
頭
募
金
で
は
大
き
な
成
果
を

2月に実施した街頭募金では、スタッフ、メンバー、運営委員だけではなく、横浜つづきワイズ&ウィメンズクラブからも活動に参加していただいたことに感謝します。

3月にも街頭募金を予定していますので、そこで募金目標をクリアできる予定であります。

2つ目は、SCジョンソン社の寄付をいただき3月にプログラムが実施出来ることです。

3月18日(土)にお仕事チャレンジとしてキッズニア東京に出かけます。もうひとつは、3月21日(祝)にファミリーデーとしてフォレストアドベンチャー横浜でのアスレチック体験です。参加費は寄付が充当されることもあり両プログラム共に定員になっております。プログラムの中では、SDGsの取り組みも考え、楽しく実施していきます。

SDGsの目標は、4.「質の高い教育をみんなに」、12.「つくる責任、つかう責任」、15.「陸の豊かさを守ろう」について活動の中で考えていきます。

毎年、横浜YMCAにSCジョンソンより多くの寄付をいただきプログラムが実施できております。寄付をいただいた方々に感謝しプログラムを実施していきます。

YMCAの活動の中では募金や寄付にふれることが多くあります。これからも多くの参加者の笑顔を大切にしていきます。



《3月例会の卓話者紹介》

3月の例会では、田園江田教会の**小林 保**さんに卓話をお願いしています。長期間のヨーロッパ滞在で培われた鑑賞眼を通しての名画の世界をお楽しみください。

テーマ：「ブリューゲルとフェルメール」 ～ネーデルランド絵画の寓意について～

小林 保さん個人概要：

1951年 横浜市保土ヶ谷区生まれ

1973年～1998年 日本通運株式会社勤務

海外旅行部門（うち、1982年～1987年はベルギー子会社に出向。

1998年～2012年はベルギーの現地 旅行会社で勤務

在留邦人対象に数人で趣味の会として、「ベルギー絵画の会」を設立。

西欧絵画の勉強会、 欧州内美術館を巡る研修などを実施。

2012年～2016年 タイの現地旅行会社で勤務

2018年10月 田園江田教会で受洗



《特別報告》 当クラブの辻 剛ワイズが委員長を務める、湘南・沖縄部エクステンション委員会が中心となって実施してきた「つながりマスク」プログラムの終了にあたり、同委員会執行部よりプログラムの振り返りと感謝が述べられた一文の寄稿がありました。素晴らしいプログラムに取り組んでこられた皆様への感謝の気持ちを込めて掲載いたします。（編集子）

「つながりマスク」を振り返って

皆様 「つながりマスク」につきましては多大なご協力をいただき本当にありがとうございました。

新型コロナ対策としてのマスクの着用については3月13日から個人の判断に委ねられることになりました。私たちの「つながりマスク」への取り組みもそろそろ3年近くになりますが、今年の1月の寿地区センターへの献品をもって終了いたしました。この3年間、ご協力いただいた皆様への感謝を兼ねて最後のご報告をさせていただきます。

世界的なマスク不足が報じられる中、2020年4月、浅羽俊一郎ワイズ（埼玉クラブ）よりワイズドットコムを通じて「つながりマスク」の提案がありました。

これを受けて私たちエクステンション委員会は、その対応について検討を開始し、翌5月初旬には部内の各クラブの皆さんに「つながりマスク」への参加を呼びかけたところ、早速多くの皆様の協力が得られました。

2020年は約1000枚、2021年は約500枚の心のコもった手作りマスク、2022~23年は約1500枚（これらは全て不織布マスク）を献品することができました。

協力してくださった方も当初8名でしたが20名に増え、ワイズ以外でも7名の方が協力してくださいました。

横浜YMCAのご協力も受けながら贈呈先を決め、多くの

皆さんに差し上げました。各YMCAの専門学校、日本語学科の留学生および学童クラスのなどの皆さん、寿地区センター、「つばめの杜保育所」等々多岐にわたりました。

このように多くの方々のご協力で沢山のマスクを作っていたいただきましたが、お互いに顔をあわすことができなかつたので、2020年10月に「つながりマスクニュース」第1号を発行しました。2月に急逝された日下部美幸さんも次のコメントを寄せてくださいました。“老眼で針の穴も糸目も見えない中作りましたが、YMCAの留学生がマスクを手にも満面の笑みを浮かべている写真を見て、すべては吹っ飛びました。”その後「つながりマスクニュース」は第2号も発行しました。

この3年間、新型コロナの感染者数が拡大し、会えない、集まらない、動けない中、一人ひとりがお互いを思い、連帯感を感じながらミシンを踏んでくださいました。布の買い出し、型紙取り、裁断、ミシン掛け、アイロンかけ、消毒、袋詰め、シールの作成、などの作業を通して離れていてもみんながつながっていることを実感していたと思います。

これこそが私たちがマスク作りを通してつながろうと目指した絆であり連帯感でした。

皆様、本当にご協力ありがとうございました。

2023年2月28日

湘南・沖縄部 エクステンション委員会

委員長 辻 剛

書記 古賀 健一郎

会計 千葉 裕子



横浜YMCAへのマスク贈呈



マスク作りに励むつづきクラブTKBの面々

TKB*お仕事会 (*Tsunami Kawaii Bachans)

2月15日（水）の定例会では東日本大震災被災地の高齢者施設と保育所にお贈りする3月のバースデーカードを作りました。絵柄はお雛様。施設で暮らしておられる高齢者の方々のご健康と、チビッ子たちが健やかに育つことを願ってカードを一枚ずつ作りました。コロナが終わって以前のように被災地を訪問出来る日が早く来るよう、願っています。



